第三中

意欲的に学び、友と高めあう生徒の育成

～「共有化」を意識した授業づくりを通して～

（３年計画の３年次）

校長　　前田　篤志

１　研究主題について

一昨年度より「共有化を意識した授業づくり」を重点施策に掲げて取り組み、コロナ禍において、どのように生徒同士のやりとりをしたり、伝え合ったりする場面を設定するかについて、授業での実践を通し模索してきた。

昨年度の研究の成果からは、一人一台端末を使用して「端末の基本的な操作方法やリモート研修の行い方について知ることができた」という意見が多かった。この研修を通して、授業で一人一台端末を使用する機会が確実に増加した。一方、生徒の意見を共有する場面での使用は限定的であったため、一人一台端末を使用しての意見の共有化について研修を進めることが必要である。

本校生徒は、素直でまじめな生徒が多く、授業での学習態度はおおむね良好である。教師の説明を聞いたり、与えられた課題に取り組んだりするなどの受動的な学習には集中して取り組める生徒が多い反面、自分の意見を話すなど表現することが苦手な生徒も少なくない。

これらの現状を踏まえて、今年度の学校目標を「互いに認め合い高め合う生徒の育成」とし、重点施策を「＜共有化を意識した授業づくり＞友と学ぶ喜びをもって学習に取り組み、将来の目標に向かって努力する生徒」と設定した。自分の考えや分かったことについて仲間と交流する場面を意図的に設定することで、学びが深まるだけでなく、学習内容の一層の定着が期待される。さらには、探求的な学びや諸活動への意欲につなげていきたいと考え、上記主題を設定した。

２　研究のねらい

「共有化」を意識した場面を授業に意図的に取り入れる研究を通して、意欲的に学び、友と高め合う生徒の育成を図る。

３　研究仮説

(1) これまでの「焦点化・視覚化」の取組を全員で継続することで、「わかった！できた！身についた！」を実感させる授業づくりが進み、生徒一人一人が興味をもって主体的に授業に臨むようになる。

(2) 「共有化」を意識した場面を授業に取り入れることで、学びが深まるとともに学習内容の一層の定着が図られ、さらに探求的な学びへとつなげることができる。

４　研究内容

(1) 授業づくりの共通の取組として以下のことを職員間で共通理解する。

ア　本時のねらいを焦点化し、それを黒板の決まった場所に生徒に明示することにより、生徒が学習の見通しをもてるようにする。

イ　課題解決や振り返りの場面において、話合い活動等の「共有化」を意識した活動を取り入れる。

(2) 授業参観月間を設定して教員が互いの授業を公開し合い、「共有化」を有効に取り入れる授業改善を行う。

(3) 教科部会を設定してＮＲＴの結果分析を行い、復習や授業改善を行う。

(4) 一人一台端末を「伝え合う、共有化」の手段として活用できるよう、研修の場を設ける。

5　研究の経過

(1) 研究仮説に基づく授業研究

月	日	学年・授業者・題材名・講師・成果・授業の概要　等
10	4	中学校教育研究会（教科）授業公開 社会　授業者　教諭　鈴木博　「個人の尊重と日本国憲法」 理科　授業者　教諭　佐々木昌彦　「光の世界」 音楽　授業者　教諭　佐藤紀子 「物語の進行と曲想の変化を関わらせながら聴き味わおう」

(2) 一般研修

月	日	内容・講師・概要等
4	4	第１回校内研修　兼　特別支援教育推進委員会 ①　校長から　・指導の優先順位　・ティチャーとコーディネーター ・自立と依存　・中学校の役割 ②　今年度の校内研修の進め方 ③特別支援教育全体計画（特別支援学級・通級指導・校内体制など） ④新年度に向けての情報交換（特別支援生徒・保健関係）
4	21	第２回校内研修 通常学級における、配慮を必要とする生徒についての情報交換
5	19	第３回校内研修「一人一台端末を活用して『生徒の意見を共有する方法』」 八戸市総合教育センター　石井一二三　主任指導主事 一般研修等支援（出前講座）
8	18	第４回校内研修「New ３観点！主体的に学習に取り組む態度どう評価する？」 八戸市立白銀南中学校　教諭　葛西良子　氏
1	11	第５回校内研修『情報モラルについて』 八戸市総合教育センター　石井一二三　主任指導主事 一般研修等支援（出前講座）

6　研究の成果

一人一台端末の活用については、今年度は「生徒の意見を共有する方法」について研修を行った。中学校教育研究会の授業発表においても、それぞれの研究授業で一人一台端末を活用して生徒の意見を共有する場を設定するなど、研修の内容が授業に活かされた。

また研修を通して、教師側の一人一台端末を使用することへの抵抗感が少なくなったことで、端末を利用して授業を組み立てたり、欠席者や不登校傾向の生徒に向けた配信授業が日常的に行われたりと、一人一台端末を授業で使用することが常態化してきた。

7　研究の課題

(1) 一人一台端末の不適切な使用や、ネットトラブルなどの課題に対し、１月に行った情報モラルの研修は効果的だった。年度初めの計画から、情報モラルについて扱う場面を設定するなど、学校全体として取り組んでいく必要がある。

(2) ＮＲＴの結果分析から、各教科で学力の二極化が大きいことが課題である。下位層の基礎・基本の定着に向けて、学習意欲を高められるような授業の取組の工夫が必要である。

（記入者　馬渡　史成）